

La Vita [ラヴィータ]

vol.
81

2012.10.31

秋田市
三浦 泉 さん

Contents

特集 「好きな道・可能性を拓く」

三浦 泉さん・小原 勇人さん

La Vitaな人々～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ

秋田ママさんプラス～ファンタジア～

男女イキイキ職場訪問 ヨコウン株式会社(横手市)

知ってるつもり!? イマドキの男女共同参画

男性にとっての男女共同参画

いんふおめ～しょん

「輝く女性フェスタ」を開催しました

全国の仲間へ能代市の「協働」を発信～NWE Cワークショップ 2012.8.25～

【La Vita】
イタリア語で
“生命・人生・生活”



連載♪
まいちゃんの素朴な疑問

2012年10月31日発行
あきたの女性 刊行平成元年6月20日

編集・発行／秋田県生活環境部男女共同参画課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号 TEL:018-860-1556 FAX:018-860-3895

http://www.pref.akita.lg.jp/ (秋田県あきたネットのトップページ)

INFORMATION

いんふおめ～しょん

「輝く女性フェスタ」を開催しました

9月1日(土)と2日(日)、フォンテAKITAの国民文化祭サテライトセンターを会場に「輝く女性フェスタ」(第29回国民文化祭・あきた2014応援事業)を開催しました。フェスタではトークショーや記念講演、トークセッションなどが行われ、講師やゲストの皆さんから、力強く、そして素敵なお話をたくさんいただきました。ここで、いくつかを紹介します。

- 自分を尊重し、我慢はしない。
後は自分で自分をきつく縛っている「蓋」を外すだけ。
- 自分の中に誰にも負けないものを見つけ、それに自信を持つ。それが魅力となって伝わっていく。
- 女性だけで良いか?というとそうではない。

ただ、「女性を外さない」こと。そして互いに認め合う姿勢が必要。

会場には秋田の女性100人による「輝く女性メッセージ」も貼り出され、「これから何かが動き出す」、そんな期待が持てる、出会いとつながりの始まりの場となりました。

**全国の仲間へ能代市の「協働」を発信
～NWE Cワークショップ 2012.8.25～**

能代市男女共同参画推進委員会が「NWE C(独立行政法人国立女性教育会館)フォーラム2012」にワークショップ運営団体として参加しました。当日の会場は、参加者との一体感が活気となって廊下にまで溢れ出る状況。ワークショップを主宰した感想等を加賀谷七重代表からいただきました。

「おらもやるがらあんだもやるべし」(考動する推進委員会活動)ということで能代市の男女共同参画推進委員会の活動を全国に発信してきました。合併後の平成18年から現在までの活動を秋田弁の通訳付きで(爆笑)紹介した後、「活動を「協働」で進めるために」というテーマで参加者全員がワーク。沢山の意見が出され活発な意見交換が行われました。ワーク終了後のアンケートでは内容が期待以上と期待通りが合わせて8割超。メンバーと運営に関わってくれたみんなで「嬉しい」と喜ぶと共に手応えを実感。とてもワクワクした時間となりました。(ワークの資料等はまとめています。ご希望の方は男女共同参画課までお問い合わせください。)



能代市男女共同参画推進委員会と秋田県からの参加者の皆さん。NWE Cの内海理事長を囲んで。

編 集 後 記



特集(小原さん)の取材で印象に残ったのは、「自分にキャッチコピーをつける」というエピソードでした。自分の最も良い部分を見つけて、言葉で示す。なかなか難しそうですが、心とじっくり向き合ってマイ・キャッチコピーを作つてみようと思っています。

(伊藤 美生)

中学校のオーケストラ部出身の私。ママさんプラスの取材は心躍るものがありました。「『子供を置いていけない』は、人に言えるもっともらしい言い訳」という目黒さんの言葉が印象的でした。

(坂本 佐穂)

**「La Vita」を読んでのご意見・
ご感想をお寄せください。
お待ちしています。**



秋田県生活環境部男女共同参画課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

●TEL.018-860-1556 ●FAX.018-860-3895

●E-mail:persons@pref.akita.lg.jp

アクションを起こしてみよう、という
自信がつきました。

「秋田弁」から 新しい価値を作ろう

「んだすこら」を始めた理由は、核

家族化の影響で秋田弁を話す人が少なくなっていると感じたから。私の言葉のルーツはおばあちゃんとの会話です。秋田弁の伝統を後世に伝えること、幅広い世代間の交流を図ること、土地の文化を育み豊かに暮らすことなどが目的です。東京に出た頃は恥りを隠すのに必死でした

が(笑)今は可能性に満ちた言葉だと信じています。若い人はもちろん、戻って来た方、転勤や進学で秋田に来れた方にも「秋田っていいな」と思ってもらいたいですね。また、観光で訪れた方にも、会話を交わすことで覚えた「秋田弁」をお土産に持ててもらいたいですね。

秋田弁をお土産に持ててもらえたなら嬉しいです。この活動を継続させて、秋田弁という無形の財産から有形の価値を生み出していくことを考えています。



「んだすこら」にて「秋田市民話の会」の皆さんと。※「んだすこら」は秋田弁の「んだ」とラテン語の「学校」が名前の由来。

好きな道・[第2回] 可能性を拓く

特集

ひとりのきっかけが、
自信とかの源に
つながった!

ようやく「秋田」と
つながった!

秋田市で開催したコピーの講座では自分のキャッチコピーを作ろうというユニークな企画も。



本好きの人たちをゆるやかに結び、交流の場を提供する「秋田Book Boat」のイベント風景。

本業の「ピーライター」に加え、秋田弁の学校「んだすこら」や本好きの人たちを結ぶ「秋田BOOK BOAT」をはじめ、「言葉」に関連する講座やイベントを手がけています。9年前に秋田に戻った頃は、東京のように仕事の需要は無い、知り合いはない…「本当にここでやっているのか」と、本当にここでやっているのか」と、とても不安でした。

今自分が携わる社会活動の原点は、2008年から「仲小路JAZZフェスティバル」の実行委員として参加した経験です。それまでは、どこかで社会との接点を模索していました。真剣にまちづくりに携わる人たちや、ここで暮らす人たちの温かさにふれて「ようやく秋田とつながった!」と実感。家に閉じこもっていても何も変わらない、だったら自分から



秋田市 小原 勇人さん
コピーライター事務所「picopi-copy」代表。東京の広告業界で経験を積んだ後、秋田に帰郷。秋田の暮らしを楽しくする社会活動も多数展開。湯沢市出身。

それぞれ、仕事や好きなことの延長線で、魅力的な企画を考え、人々を楽しませている
小原勇人さんと三浦泉さん。

「仲小路マーケット」を開催したこと

です。

その後、秋田市千秋公園、五城目町の高性寺など各地で開催。また「旅

マ」では、タイ・エンマイにあるH-I V母子感染孤児生活施設「バーン・ロムサイ」へのチャリティー活動にも参加しています。

現在、「旅マ」で声をかける作家さんは50人ほどいます。ハンドメイド雑貨、布小物、皮の雑貨、木工品、古道具…。8割方、30代から40代の女性です。ハンドメイドの温もりのあるクラフト・雑貨等はそれぞれファンもいて人気があり賑わっています。自営業の方々と、集客や売り上げ等についても遊びでなく厳しい緊張感を持って連携し、お互いにいい関係を築いてきました。

「参加して楽しかった」で終わることなく、マーケット商品としての質を大切にしながら、収益が上がるよう工夫している人もいます。その様子を見た時、「旅マ」を開催してよかったです、と喜びを感じています。

物語が開く
新しい世界

転機は、2011年5月、横手市での「旅マ・紅玉の国へ行く」です。ここで企画展「百子(ももの)の部屋」を開催。物語を創りました。そこからイメージする雑貨やクラフト作品等で構成することで、作家さんや、出店者たちは、テーマに合わせてそれぞれ工夫し、今までの「旅マ」から変化しました。

今年の「旅マ」のテーマは「恋」です。8月のJAZZフェスでは、「与次郎の恋物語」を開催しました。物語によって開かれた「旅マ」はさらに楽しくなったと好評です。

今は企画運営に力を注いでいるのですが、「旅マ」を通じて、いろいろな人のつながりが出来るのが嬉しいです。その楽しさが、結果的に作家さんたちや、お客様、多くの方に喜ばれることがあります。

将来的にはタイ・エンマイで「旅マ」を開催して、現地の方々に喜んでいただきたい、そんなことも思っています。



旅する恋する物語は続く

まるでサークス団が
やつて来たような
賑やかさ
楽しさ

今年のJAZZフェスで千秋公園に並んだ「旅するマーケット」の様子。

夏の暑い日差しの中で冷えたトマトも美味しく人気でした。



秋田市 三浦 泉さん

ハンドメイド雑貨の作家やカフェ、アロマ、写真家等、多種多様な人たちで構成される「旅するマーケット」代表。歯科衛生士。潟上市出身。

「旅マ」を始めるきっかけは、2008年「仲小路JAZZフェスティバル」の際に、ハンドメイド作家仲間等との調整役として要請を受け、縁日は好きでした。

「旅マ」を始めるきっかけは、2008年「仲小路JAZZフェスティバル」の際に、ハンドメイド作家仲間等との調整役として要請を受け、縁日は好きでした。

「旅マ」を始めるきっかけは、2008年「仲小路JAZZフェスティバル」の際に、ハンドメイド作家仲間等との調整役として要請を受け、縁日は好きでした。

今は企画運営に力を注いでいるのですが、「旅マ」を通じて、いろいろな人のつながりが出来るのが嬉しいです。その楽しさが、結果的に作家さんたちや、お客様、多くの方に喜ばれることがあります。

将来的にはタイ・エンマイで「旅マ」を開催して、現地の方々に喜んでいただ

朝8時に幼稚園バスが来るので、6時には起きて朝食の準備や身支度をさせて送り出し、掃除洗濯をしてから取りました。

あつという間の一 日

「妻の大変さを知り、助け合う時間に」

昨年、長男の陸琥（6歳）が幼稚園から持ってきた育休のパンフレットを読み、長女・羽海（9ヶ月）が生まれるとすぐに育休を取つて陸琥の世話をしたいと思い、妻と相談して会社に申し出ました。取得に向けての手続きを会社がしてくれたのもありがたく、出産前日から取りました。

父親同士の子育て談義も

育休中は子どもと触れ合う時間が増え、それまでは甘えん坊の陸琥が自分で片づけをするなど、父親のこ

男たち 育休を取つた ラヴィータな人々 シリーズ「第20回」



本多造園土木(八峰町)
社員 大森 恵寿さん(33歳)
平成23年11月14日～12月5日までの22日間の育児休業を取得

妻の病院へ行くともうお昼。午後1時には幼稚園から戻つてくるので、一緒に買い物をして夕食を作つてお風呂に入れて寝かしつけ、アイロンがけをすると夜10時過ぎ。1日があつという間でした。

週1回のお弁当テーのときは、朝5時に起きてサッカーボールおにぎりを作つたり。妻がキャラ弁を作つていたので、中途半端にはできませんでした。

大森さんから育休の申し出があるまで、育休について知らなかつたので、最初は驚きましたが、絶対に取得させたいと思い、社長に「一生の中で、そのタイミングでの経験はそのときだけなので、取らせたい」とお願いしたところ、「人として家庭を大事にすることが、成長につながる。なんとかなるべ」と、了承されました。業務の流れはよく電話で伝えていたので、埋めは残つた人で頑張ろうと、従業員同士の結束にもつながりました。

本多造園土木 経理 本多淳子さんのお話

とを思いやつてくれる様子も嬉しかったです。とにかく、妻の大変さ、年中無休の主婦の大変さを知る機会となりました。羽海のおむつ替えも、最初は強く拭いて真つ赤になつたり、かぶれたりで難しかつたですが、段々慣れて上手になりました。今は離乳食を食べさせるのが面白いです。

今でも日曜日の食事洗濯は、自分の担当羽海達と会うと、「何歳になった？」と盛り上がっています。

把握でき、復帰もスムーズでした。穴埋めは残つた人で頑張ろうと、従業員同士の結束にもつながりました。

両立支援情報 ~子育てタクシーのご案内~

荷物の多い乳幼児を伴つての外出サポートや、保護者の代わりに責任を持つてお子様を送迎するタクシーサービスが「子育てタクシー」です。妊娠さん、0歳～15歳のお子様と保護者の方がご利用できます。

お問い合わせ
秋田県健康福祉部子育て支援課
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
TEL 018-860-1341 FAX 018-860-3844
<http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate>

QRコード
子育てタクシー 検索

一般社団法人 全国子育てタクシー協会事務局
〒601-8124 京都市南区上鳥羽塔ノ本30-2
TEL 075-662-3280 FAX 075-682-8791
<http://kosodate-taxi.com/>

QRコード
子育てタクシー 検索

全国子育てタクシー協会のホームページでは子育てタクシーの詳細なサービス紹介や色々な利用例が紹介されています。

Q&A さらにお二人に聞いてみました!

インタビューでは、誌面じゃ伝えきれない楽しい話題がまだまだいろいろ！興味のある方は、ぜひお二人の企画にも足を運んでみてください。



三浦 泉さんに聞きました！

Q:「旅するマーケット」という名前の由来は？

A:文字通り、旅するように場所を移動しつつ、そしてサークルのように楽しい夢のあるマーケットを開催することをイメージして名付けました。

Q:「旅マ」を主宰する上で気に掛けていることは何ですか？

A:1つは、皆さんのが「売上が上がっているかどうか」。長く作り続けるには、対価を得ることが必要です。それに、対価は、作品の評価そのものです。2つめは、「マーケットとしての質」。「旅マ」が他のマーケットと比べてどのレベルにあるのか気になります。今でも時間を見つけて、色々なマーケットに出かけ、「旅マ」のレベルを自分なりに確認しています。

Q:「旅マ」の旅先はどのようにして決まるのですか？

A:「旅マ」は受け皿となってくれる「旅先」がないと成り立ちません。現在は、自営業者の店舗などで開催する機会が多いのですが、特に「集客」については経営者の視点から工夫を求められ、私自身勉強になります。馴れ合いでなく、共により良いものを目指せるGIVE & TAKEの同志です。これからも、今の仲間を大事にしながら、新たな繋がりを求めて様々な所へ旅に出かけます。

Q:「旅マ」は他のフリーマーケット等とどう違うのですか？

A:それはお客様が決めることだと思います。ただ、「旅マ」としては手作り作品という所に面白みを見出していくたいと思います。興味のある方は、ぜひご連絡を。

●TEL: 090-3759-3267 ●MAIL: isetauemei@ybb.ne.jp

小原 勇人に聞きました！

Q:「んだすこら」の次の勉強会は？

A:2013年2月の予定です。ツイッターでも秋田弁でつぶやいてるのでチェックしてみてください。みんなでおべるべ！(覚えよう)

●秋田弁の学校「んだすこら」twitterアカウント @ndaschola

Q:無形の秋田弁から有形の価値を生み出す、その心は？

A:聞いて、話して、お互いに会話をして、はじめて秋田弁が「言葉」になると思うんです。若い人にもどんどんしゃべって欲しいし、観光客にも会話を通じて秋田弁をプレゼントしたい。今後も勉強会や、カフェのような場を設けて、秋田弁で気軽に交流できる機会を増やしていきたいですね。秋田弁には、いろんな可能性を感じています。

Q:コピーライターという職業を活かした活動もされていますね。

A:はい。秋田市内でコピーの勉強会を開き、参加者の皆さんに自分のキャッチコピーを考えもらいました。また、とあるイベントでは私が「路上コピーライター」になって、依頼者のキャッチコピーを即興で考えて色紙に書いて渡す、という企画も実施しました。自分自身を見つめ直し、長所を引き出して「売り」になるコピーを持つことは、その人の自信にもつながると思います。皆さんに喜んでもらえました。

Q:小原さんご自身のキャッチコピーは？

A:「筋金入りのこんにゃくです」…筋がピシッと通つてながら柔軟に対応できる、という意味合いを込めました。

日常をめくってみれば

前号に引き続き、今回は「チャレンジャー」と題した対話劇をご紹介します。台本の提供は「F・Fネットあきた南」です。

ねえあなた、実家の義姉さん、空き店舗を利用して託児所始めるつて。
へえ？この少子化時代に？
最近、ゼロ歳児保育の需要が多いんだって。
確かに義姉さんは昔保育士だったけど、経営となるとなあ？
それがね、女性を応援するための無料起業セミナーがあるらしい。
アッ？俺は無理！お前からもううたオレの退職金はもうないし…
あなたにお金の相談なんか初めてからしません！女性が起業する際、国で支援してくれる制度があるんだって。
でも先立つものがなきゃ無理だろう。
じゃーだよな。
商家に嫁いで二十年、だいぶ鍛えられたんじゃない？ああ、私も昔は店の看板娘だったのになあ。
へえー？しかし、義姉さんもチャレンジャーだとおい？まさか母さんまでも何か始めるとか言わないでくれよ？
私はあなたと結婚したことで、充分チャレンジャーだとおもいます！

